

■梅毒とはなんですか？

梅毒トレポネーマという病原体によって引き起こされる感染症です。

性的接触などによって（稀ですが、傷口などへの接触などによっても）人から人に感染してしまいます。

■梅毒に感染するとどうなりますか？

梅毒は人の身体に侵入したあとすぐに発症（身体症状が出てくる）わけではなく、しばらく体の中に潜み、時間をかけて身体をむしばんでいきます。感染してからの時期によって症状が変化していきますが、大きく分けて3つの時期に分けられます。

1期梅毒	<p>性的接触などにより身体に菌が入ってから2～6週間程度の時期です。</p> <p>菌が入った身体場所（股間や、口の中など）の付近で症状が出てきます。例えば、セックスで性器から菌が侵入した場合は、性器周辺に「しこり」が出来たり口内炎のような傷が出来たり、股の辺りのリンパ節が腫れたりします。オーラルセックスで感染した場合は、口内炎（痛くないことが多いようです）ができたり、首のリンパ節が腫れたりします。</p> <p>これらの症状は放っておいても自然に消えていきます。ここが梅毒の厄介なところなのですが、この症状が消えていくのは、「良くなった」わけではなく、菌が再び体に潜み、全身にばら撒いていく準備をしているという状況です。</p>
2期梅毒	<p>1期梅毒から1～2か月程度経った時期に出てきます。</p> <p>菌が全身に回っていき身体あちこちで症状を出していきます。一番わかりやすく多い症状では皮膚に「バラ疹」とよばれる発疹が出ます。これは5mmから10mmくらいの赤い発疹で、全身、手のひらや足の裏に出ることもあります。そのほか、見える場所だと口の中の口内炎が出来たり（1期の口内炎と比べて痛いこともあります）、髪の毛が抜けたり（円形脱毛になることがあります）します。また、内臓、例えば肝臓や腎臓、胃などにも炎症を起こすこともあります。</p> <p>2期梅毒の症状も、治療しなくても1か月程度で自然に治まってしまう。その後症状が出たり引っ込んだりすることもあります。しばらくすると再び菌が身体に潜んでしまい、全く症状がない状態（潜伏梅毒と言います）になってしまうことがあります。この状態もやはり「良くなった」わけではありません。症状が見えなくなってしまった後は診断が難しくなり（発見しづらくなります）、長年放置すると、厄介な3期梅毒になってしまう恐れもあります。</p>
3期梅毒	<p>菌に感染してから2年～50年と長い時間をかけて身体の臓器をむしばみます。眼や耳、心臓や大事な血管、神経などを侵したり、筋肉や皮膚、骨などに「ゴム腫」と呼ばれるコブを作ってしまったたりすることがあります。</p>

■梅毒を心配しているけど、どうやって調べたらいいの？

通常、血液検査で調べることが出来ます。

病院で検査を行うこともできますが、自治体で匿名・無料の検査を行っています。

参考：宮崎県 HP（リンク埋め込み）；

■検査を受けてみたいとき、検査を受けて陽性になったとき、どうしたら良いの？

性感染症の診療が行える医療機関を受診してください。

【古賀総合病院での性感染症の診療について】

当院では、木曜日の午前中に内科外来で日本感染症学会専門医/指導医が診療を行っております。性感染症の専門外来ではなく、「一般内科（総合診療科）」枠での受診になります。様々な疾患、年齢、性別、セクシャリティの方が来院されますが、診療などについて心配なことがあれば診察の際にお気兼ねなくご相談ください。

受診を希望されます場合は、事前予約は必要ありませんが突発的な休診のことがあります。前もって受診できるか確認のお電話を頂けますと確実です。

【選定療養費について】

紹介状がなく、当院を初めて受診される場合「選定療養費（通常 7,000 円）」の負担が必要になります（選定療養費について）（リンク埋め込み；

http://www.kgh.or.jp/guidance/first_medical.html）。保健所で受けた無料検査で陽性になった場合、その結果用紙に医師の氏名（または保健所所長の氏名）が記載されており、その結果用紙を持参された場合は紹介状を持参されたのと同じ扱いになり、選定療養費の負担は必要ありません。

■どんな治療をするの？

注射のお薬を用いて治療を行います。入院の必要性はなく、受診した当日にお尻に注射をする治療方法を主にを行います。通常はその日の1回の注射で、治療自体はおしまいです。

※感染から1年以上時間が経過している場合は、1週間ずつ間を開けて3回注射を行うこともあります。

※ごく稀ですが、特殊な梅毒の場合には、入院した上での点滴治療が必要な場合もあります。

■受診は1回で終わりですか？

治療の注射は多くの場合1回で終わりなので簡単なのですが、通院はもう少し続きます。

まず、性的接触で感染した場合、ほかの性感染症、例えばクラミジアや淋病、HIVなども一緒に感染してしまうことがあります。このため、通常はこれらの検査も行い、もし引っかかるものがあればその詳しい検査や治療も行っていきます。

梅毒の治療が始まったあとは、血液検査を行いながら良くなっているかどうか、何度か通院して検査を行っていきます。しっかり治療が上手くいっているか確認していきたい感染症ですため、通常、4-5回、半年から1年程度通院して頂くことになります。

■そのほかに気を付けた方が良いことはありますか？

パートナーの方、感染している可能性のある方も検査を受ける必要があります。相手が感染したままでは、ご自身が治療を終えた後に、相手から再び感染してしまうことがあります。パートナーも検査を受け、必要があれば治療を行うことが肝心です。治療を開始する方へは、パートナーの方に自治体の検査をお勧めすることが多いです。